

令和6年度第2回 安城市環境審議会議事録要旨

日 時	令和6年12月5日(木) 午後2時～3時30分	
場 所	安城市役所本庁舎3階 災害対策本部室	
出席者	委 員	石川会長、中尾副会長、飯尾委員、小林委員、浅田委員、岩井委員、片岡委員、新原委員、竹本委員、土井委員、野村(勝)委員、野村(俊)委員、久恒委員、渡邊委員、池端委員、石原委員、藤田委員 17名
	事務局	環境部長、環境都市推進課長、環境都市推進課カーボンニュートラル推進室長、環境都市推進課環境政策係長、環境都市推進課環境衛生係長、環境都市推進課カーボンニュートラル推進室温暖化対策係長、環境都市推進課職員
次 第	1 会長あいさつ 2 議 題 安城市ゼロカーボンシティ推進戦略(案)について 3 その他	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【資料1】安城市ゼロカーボンシティ推進戦略(案)について</li> <li>・【資料2】戦略(案)の事前確認におけるご意見と回答について</li> <li>・【資料3】安城市ゼロカーボンシティ推進戦略(案)</li> <li>・【資料4】用語説明</li> <li>・令和6年度環境報告書 資料編</li> </ul>	

1 会長あいさつ

2 議 題

安城市ゼロカーボンシティ推進戦略(案)について

<説明事項>

【事務局】

- ・【資料1】安城市ゼロカーボンシティ推進戦略(案)について
- ・【資料2】戦略(案)の事前確認におけるご意見と回答について
- ・【資料3】安城市ゼロカーボンシティ推進戦略(案)
- ・【資料4】用語説明

<報告に関する質問・意見>

【片岡委員】2035、2040年に向けた国の目標が最近発表された。戦略の目標年度は2030年度だと承知しているが、国の動向は2030年度以降でもわかる範囲で最新値を書き込むと良いのではないか。

**【事務局】** 事務局内で検討後、国の動向においては最新情報を書き込んでいく。

**【小林委員】** 戦略の基本事項の数値目標について、「国連携取組」、「特定事業所自主取組」「市独自取組」とあるが、市民目線では、「国連携取組」が、何かわからない。もう少し丁寧に説明を書き加えるべきである。

全体の削減目標に対して、国が進める対策に市はこのように参画する、といったように記述し、それでも二酸化炭素削減量が足りないため、さらに市はこのような施策（取組）を実施していく、と説明すると良い。

**【事務局】** 資料3のP.11に記載されている「国連携取組」についての説明が現状は2行しかないため、国が進める取組に対して、市がどのようにかかわっていくか、記述していく。

**【飯尾委員】** P.32 取組③「ナッジの活用」について、ナッジをどのように活用していくのか、明確になっていない。またページ下部の家電製品の買い替えについても、経済的インセンティブと捉えられるため、取組③とつながらない。

**【事務局】** ナッジはゼロカーボンシティを目指すにあたり市民の行動を促すためにはとても重要であると考えている。ページ下部の家電製品の買い替えについては取組み④の事例として書かせていただいたが、ナッジの事例にするなど修正案を検討したい。

**【池端委員】** 新技術として、二酸化炭素のみを通すビニールハウスが開発されたと聞いた。こういった技術を活用することで、トマトの収穫量が30%上がるといったように農業が効率化され、46%より多く排出量を削減できるのではないかと考えるがいかがか。

**【事務局】** 戦略では、「46%以上」の削減を目指すとしている。この「以上」に貢献するものとして、新技術の調査研究等についても推進していく。

**【飯尾委員】** ゼロカーボンを目指す目標として、国は2050年までとしているが、なぜ安城市は2030年までか。

**【事務局】** 国においても2050年カーボンニュートラルへ向けての中期目標が2030年度であり、安城市も国に倣っている。

【中尾副会長】補足であるが、パリ協定のNDCは5年おきに目標の見直しを定めている。これまで2030年までを目標にしていたが、今後は2035年を目標に取り組んでいくことになると思う。

【浅田委員】戦略の基本事項について、「安全・安心で誰もが住みたくなる魅力あふれるまちを目指す」とある。近年ゼロカーボンシティなどと言われているが、市民はどれだけこの言葉を知っているか、定着しているか疑問である。生活学校でゼロカーボンに関するセミナーがあったが、参加者がいなかった。横文字は難しくてわからないという声があった。

【事務局】引き続き、「啓発」に注力していく。例えば、広報あじょうにも、昨年度12月号に「カーボンニュートラル行動ブック」というチラシを折り込み、ゼロカーボンシティに向けて、生活の中で取組める活動を紹介した。多くの市民に「やってみよう」と思っただけのように、各取組みにおいては、CO2削減量とともに光熱費の削減額を記載するなどの工夫をした。また、町内会などへも啓発していきたいと考え、今年度から「カーボンニュートラルを始めてみませんか？」という題名で、まちかど講座を開催している。こういった啓発ツールを今後も検討していく。

【小林委員】P.6のゼロカーボンシティの姿のイラストが前回より良くなっている。ゼロカーボンシティになると市民がどううれしいか、うれしさを表現してほしい。我慢では達成できないと考えるため、快適で健康寿命が延びるといった視点、資料における青色の囲みの中がとても重要である。また、導入が固い印象なため、ここを修正すると市民にわかりやすいと考える。

【事務局】ゼロカーボンシティを達成した安城市をイメージしていただき、住みたいと思っただけのよう工夫していく。

【浅田委員】P.6のゼロカーボンシティの姿のイラストに記載があるカタカナ文字が高齢者にはわかりにくいので、カタカナ用語については日本語を補記してもらえないか。

【事務局】見易さを考慮してP.6では記載せず用語説明に記載する形で対応させていただきたい。

【土井委員】カーボンニュートラル行動ブックは、用語は子どもに説明しづらいものもあったが、イラストや色で興味をもっていた。これからカーボンニュートラル

をPRする際には子ども用にフリガナを振り、図を用いるなどわかりやすいものを作成するといいいのではないか。また、アプリなどを用いて楽しみながら温暖化対策に取り組めるとよい。

**【事務局】** 家庭で子どもと一緒にチラシをご覧いただけたと話があったが、そういった家庭が増えるよう手段を検討し、伝える努力をしていく。

**【久恒委員】** カーボンニュートラル行動ブックを、子どもと見たときにエアコンのフィルター掃除など項目ごとに、チェック欄やシールを貼る欄を設けると、子どもでも取り組みやすい。

**【中尾副会長】** 久恒委員の発言であった通り、子どもと一緒に取り組める工夫や、先ほどの話にもあったナッジのように、自然と後押しするような仕掛けなどを用いて行動変容を促せるとよい。

**【事務局】** 市発信でそういった仕掛けができるよう考えていきたい。

**【飯尾委員】** 戦略を作った後、戦略を知ってもらうことが重要である。名古屋市はごみ減量の際に非常に多くの説明会を実施した。予算に限りはあると思うが、危機感を持たせるために、ある程度強制して丁寧な説明をする必要があると考える。どれだけわかりやすい戦略にしても、読んでくれない人には伝わらない。読んでくれない人にきめ細かな説明を行うといったように、伝える努力が必要である。

**【事務局】** 予算をかけて強制するのではなく、知恵を絞りアイデアを考えて取り組んでいきたい。

**【石川会長】** カーボンニュートラルに関して市職員の取り組みについて尋ねたところ、2 km以内を自転車通勤していると聞いた。二酸化炭素削減のためだけでなく、健康のためにも、このような取り組みは大切だと考える。

(議題に対して異議はないこと了承)

#### <総括>

**【小林委員】** 本日の会議では今まで以上に発言があり、意見交換ができてよかった。やはり自分事として考えることが最も大事だと感じている。行動するには自分で考え咀嚼し、何ができるかを見つけることが大切である。CO2削減と健康で快適な生活を両立させるための仕組み作りが重要であり、成果を出すためには準備が不可欠となる。今後の審議会で、アイディアベースでたくさんの意見を出して進めていけるといい。

**【飯尾委員】** 人間は気づくことで何らかの行動変容を起こすものである。よって、これからいかに市民に気づいてもらうかが重要となる。また併せて重要なのが丁寧でわかりやすい説明だ。温暖化対策について、子どもたちの気づきを得るために小学校単位で、また、安城市の特徴を活かして農協単位で意見交換会を実施するといふ。戦略をつくった後にどう進めるかが重要である。

### 3 その他

#### <説明事項>

##### **【事務局】**

- ・環境報告書 資料編の配布について
- ・次回の環境審議会は、令和7年3月14日(金)午後3時からを予定